

2020年12月期 第2四半期 決算補足説明資料

株式会社 ミズホメディー(証券コード4595)

2020年8月11日

- I 会社概要**
- II 事業概要**
- III 2020年12月期 第2四半期決算実績と
2020年12月期 通期業績予想(未定)**
- IV 今後の成長戦略**

I 会社概要

会社概要



- 商号 株式会社 ミズホメディー（証券コード4595）
- 設立 1977年11月2日
- 本社所在地 佐賀県鳥栖市藤木町 5 番地の 4
- 代表者 代表取締役会長兼社長 唐川文成
- 従業員数 177名（2020年6月30日現在）
- 事業内容
 - ・病院・開業医向け体外診断用医薬品の開発・製造・販売
 - ・OTC（薬局・薬店）向け検査薬の開発・製造・販売
- 主要取引先 株式会社メディセオ、東邦薬品株式会社
株式会社スズケン、アルフレッサ株式会社
株式会社バイタルネット、富士フイルム株式会社 他
- 営業拠点
 - ・本社 ・東京営業所 ・大阪営業所
 - ・名古屋営業所 ・その他各地駐在
- 開発拠点
 - ・本社（鳥栖）・遺伝子研究所(久留米)



本社・工場（佐賀県鳥栖市）



久留米工場・遺伝子研究所（福岡県久留米市）

Ⅱ 事業概要

「病院・開業医分野」と「OTC・その他分野」



病院・開業医分野



免疫血清
POCT

遺伝子
POCT



OTC・その他分野



OTC

農業



※POCT (Point of Care Testing) : 診察室、病棟及び外来患者向け診療所など、患者に近い医療現場での検査

(1) POCT迅速診断キット (目視判定) ①



クイック チェイサー シリーズ 業界トップクラスのラインナップ

大病院からクリニックまで、どのような医療現場でも使うことができる、POCT製品(迅速診断キット)シリーズ

呼吸器感染症検査薬



インフルエンザウイルス



アデノウイルス



RSウイルス



Strep A(A群β溶連菌)



RSV/hMPV



hMPV



マイコプラズマ



肺炎球菌Ⅱ



肺炎球菌/レジオネラ

(1) POCT迅速診断キット (目視判定) ②



クイック チェイサー シリーズ 業界トップクラスのラインナップ

大病院からクリニックまで、どのような医療現場でも使うことができる、POCT製品(迅速診断キット)シリーズ

消化器感染症検査薬

ノロウイルス

ロタウイルス

新製品

クロストリジウムディフィシル

H. ピロリ

尿糞便検査薬

便潜血



➤ 高感度感染症迅速診断システム

- ◎ 当社のメンブレン技術と富士フィルム株式会社の写真の現像技術を融合した増幅反応により高感度化を実現
- ◎ インフルエンザウイルス、マイコプラズマ、RSV/Adeno の高感度製品3項目、アデノウイルス、Strep A(A群β溶連菌)の計5項目をラインナップ

デンストメトリー分析装置

クイックチェイサー Immuno Reader II



【製品の特長】

- ◆ 早期診断が可能
(発症初期の診断精度向上)
- ◆ 装置による結果判定
(判定結果はモニター表示
とプリントアウト)

【IIの実用性向上ポイント】

- ◆ コンパクト化 (省スペース)
- ◆ タッチパネルの採用
(操作性・視認性向上)
- ◆ バーコードリーダー搭載
(検体ID情報等読取可)

【専用試薬】

クイックチェイサー® Autoシリーズ

Flu A,B



Myco



RSV/Adeno



Adeno



Strep A



(3) 遺伝子POCT機器試薬システム①



▶ 全自動遺伝子解析装置 (PCR・Qプローブ法)

微生物/遺伝子検査が身近に

※2019年7月に「肺炎マイコプラズマ肺炎に対する治療指針」(日本マイコプラズマ学会策定)が改訂され、急性期の確定診断において実施することが望ましいとされるマイコプラズマ核酸増幅法として、従来のLAMP法に加え、新たにQプローブ法が追加されました。

全自動遺伝子解析装置 Smart Gene



【機器の特長】

- ◆ 迅速判定が可能
- ◆ 1ステップ自動判定。試薬ロスができません
- ◆ 核酸分子の配列情報を解析できます
- ◆ コンパクト設計の卓上タイプ
- ◆ タッチパネルでスムーズな操作

マイコプラズマ核酸キット

スマートジーン® Myco

専用試薬



【試薬の特長】

- ◆ マイコプラズマ核酸検出が試料滴下からわずか約30～50分の迅速判定
- ◆ 煩雑な前処理不要で、院内検査が可能
- ◆ マイコプラズマ 23S rRNAの変異株も含め全てが検出可能

▶ 全自動遺伝子解析装置（PCR・Qプローブ法）

微生物/遺伝子検査が身近に

～新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の検査体制の拡充への貢献を目指す～

研究用試薬

スマートジーン® 新型コロナウイルス検出試薬



【試薬の特長】

- ◆ 煩雑な前処理不要（RNA抽出作業が不要）
- ◆ 新型コロナウイルスの検出が試料滴下からわずかに約60分の迅速判定
- ◆ 開業医・診療所などで、院内検査が可能

発売時期
2020年8月中旬以降



➤ 妊娠検査薬・排卵日検査薬

◎ 自社ブランド「P-チェック」での販売や大手チェーン店とのPB提携も実施

【妊娠検査薬】



【排卵日検査薬】



※妊娠検査薬は早期に展開しシェアトップ

◎ 武田コンシューマーヘルスケア(株)販売のハイテスターシリーズ

【妊娠検査薬】



【排卵日検査薬】



**Ⅲ 2020年12月期 第2四半期決算実績と
2020年12月期 通期業績予想(未定)**



➤ 業績ハイライト(第2四半期累計)

| | | | |
|---------|----------|--------------|---------------|
| ✓売上高 | 1,663百万円 | (前年は2,846百万円 | 、予想は2,168百万円) |
| ✓営業利益 | △129百万円 | (前年は 434百万円 | 、予想は 26百万円) |
| ✓経常利益 | △129百万円 | (前年は 435百万円 | 、予想は 27百万円) |
| ✓四半期純利益 | △93百万円 | (前年は 313百万円 | 、予想は 14百万円) |

※各損失は△で表記

※予想は、2020年3月19日公表

➤ ポイント

✓前年同期比：

インフルエンザの流行は異例の低水準、その他の感染症は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により外来患者が減少し、大幅な減収減益

✓予想比：

新型コロナウイルス感染症の影響により外来患者が減少し、予想以上に検査需要が急減

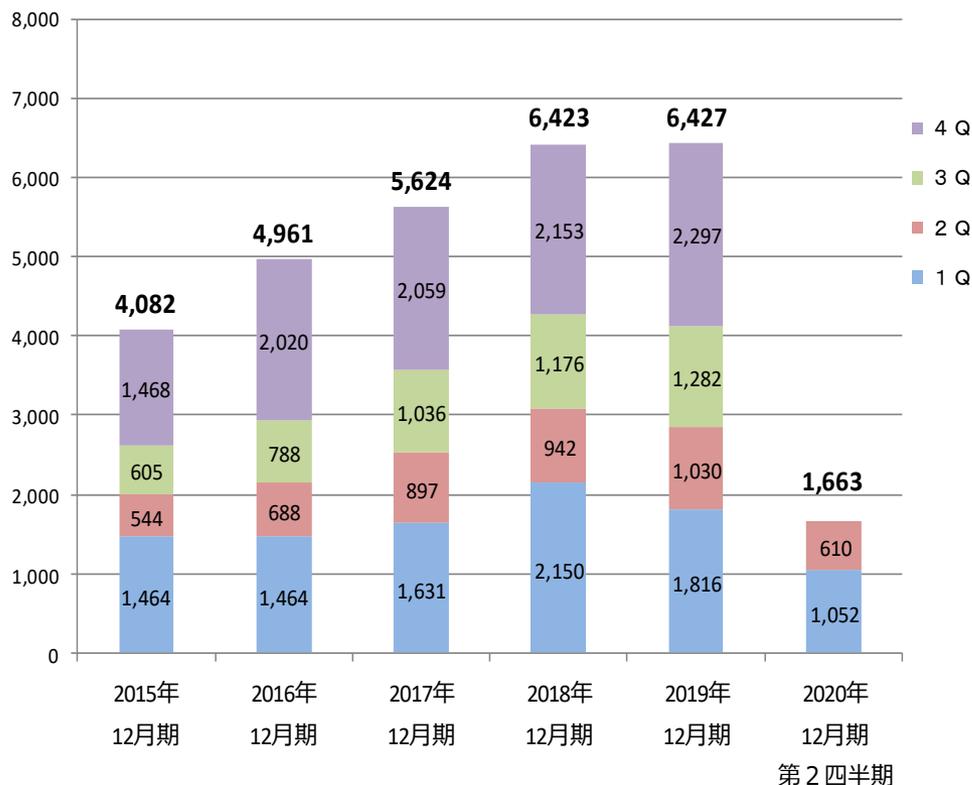
2020年第2四半期決算実績 業績の推移（売上高、経常利益）



➤ 2020年第2四半期累計は、インフルエンザの低水準の流行と新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減収減益

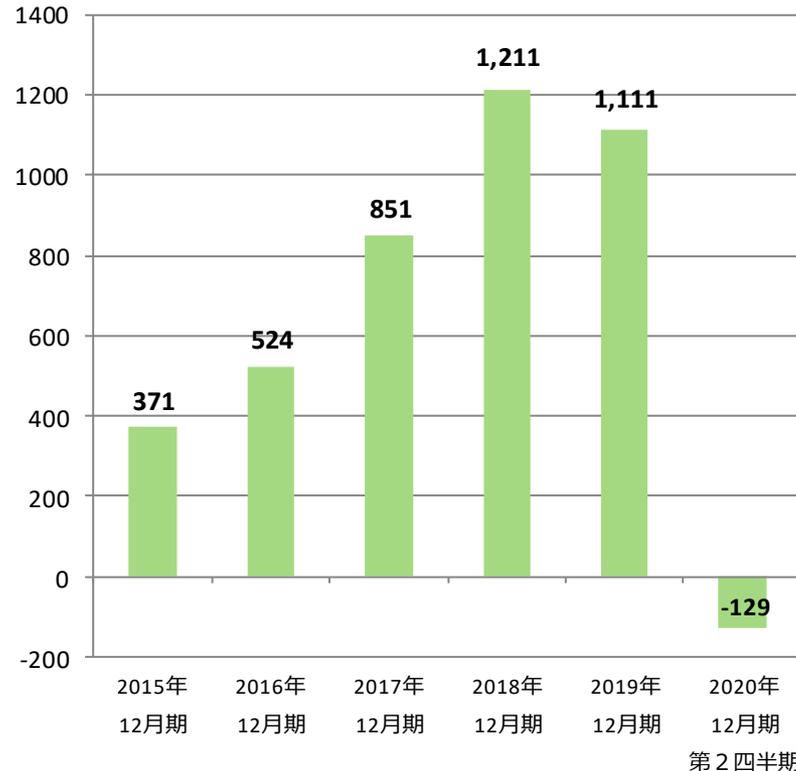
売上高

(百万円)



経常利益

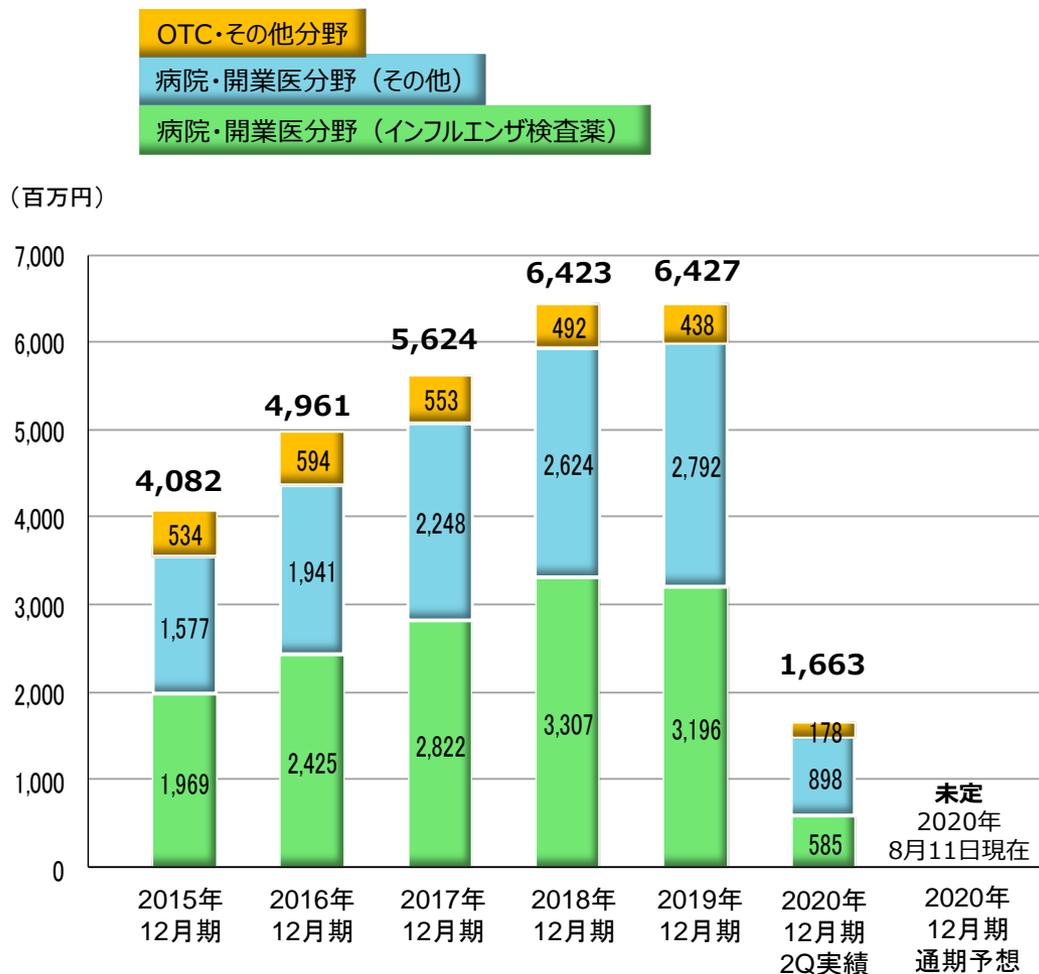
(百万円)



2020年第2四半期決算実績 市場分野別の売上高推移



市場分野別の売上高



2020年第2四半期累計 (1,663百万円 前年同期比41.6%減)

■ 病院・開業医分野 (1,484百万円 同43.4%減)

◇ インフルエンザ検査薬 (585百万円 同56.4%減)

- ・2019/2020シーズンのインフルエンザは、記録的暖冬や多雨等の影響により、年明け後の患者数は例年の約40%と異例の低水準の流行
- ・この影響により検査薬の需要が激減し、大幅な減収

◇ その他 (898百万円 同29.8%減)

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、医療機関の外来患者の減少に伴い、検査需要が減少
- ・呼吸器感染症項目は大幅に急減(約50%減)
RSV/ヒトメタニューモ、アデノウイルス、StrepA等
- ・新型コロナウイルス感染可能性の除外の目的で増加(約30%増)
肺炎球菌/レジオネラ、マイコプラズマ

■ OTC・その他分野 (178百万円 同20.6%減)

- ・妊娠検査薬及び排卵日検査薬
新型コロナウイルス感染症の影響により、消費者の購買活動停滞の影響も加わり減少

損益計算書 P/L (前年同期比、予想比)



- 売上高 1,663百万円 (前年同期比 41.6%減、予想比 23.3%減)
- 経常利益 △129百万円 (前年同期 435百万円、予想 27百万円)

- ✓前年同期比：インフルエンザ流行は異例の低水準、その他感染症は外来患者減少により減収減益
- ✓予想比：新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、医療機関において受診控えが広がるなど、外来患者数が減少したため、5～6月は検査需要が予想以上に急減

(百万円)

| | 2019年12月期 | | 2020年12月期 | | | | | | | |
|----------------|-----------|----------|---------------------|----------|--------|----------|--------|----------|------------------|----------|
| | 2Q累計実績 | | 2Q累計予想 (3月19日公表) | | 2Q累計実績 | | 前年同期比 | | 予想比 (3月19日公表) | |
| | 金額 | 構成比 % | 金額 | 構成比 % | 金額 | 構成比 % | 増減額 | 増減率 % | 増減額 | 増減率 % |
| 売上高 | 2,846 | 100.0 | 2,168 | 100.0 | 1,663 | 100.0 | △1,183 | △41.6 | △505 | △23.3 |
| 差引売上 総利益 | 1,900 | 66.8 | 1,440 | 66.4 | 1,023 | 61.5 | △877 | △46.2 | △416 | △28.9 |
| 販売費及び 一般管理費 | 1,466 | 51.5 | 1,413 | 65.2 | 1,152 | 69.3 | △313 | △21.4 | △261 | △18.5 |
| 営業利益 | 434 | 15.3 | 26 | 1.2 | △129 | — | △563 | — | △155 | — |
| 経常利益 | 435 | 15.3 | 27 | 1.3 | △129 | — | △565 | — | △157 | — |
| 四半期 純利益 | 313 | 11.0 | 14 | 0.7 | △93 | — | △407 | — | △108 | — |

2020年第2四半期決算実績 貸借対照表 B/S (資産)



□ 当社第2四半期末 B/Sの特徴 「インフルエンザの季節変動の影響」

- ▶ 前期末のインフルエンザ検査薬に係る売上債権の回収が、翌期の第2四半期会計期間に集中するため、前期末と比べ、売上債権は減少し、現金及び預金は増加する傾向あり

(百万円)

| | 2019年 12月末 | 2020年 2Q末 | 増減額 | 主な増減内容 |
|----------|---------------|--------------|--------|--------------------------------|
| 流動資産 | 3,852 | 2,798 | △1,054 | |
| 現金及び預金 | 217 | 711 | 493 | ・売上債権の回収に伴う増加 |
| 売上債権 | 2,489 | 637 | △1,852 | ・主にインフルエンザ検査薬の 売上債権の回収に伴い減少 |
| たな卸資産 | 1,141 | 1,426 | 285 | ・主にインフルエンザ検査薬が増加 |
| その他流動資産 | 4 | 22 | 18 | |
| 固定資産 | 2,513 | 2,477 | △35 | |
| 有形固定資産 | 2,214 | 2,142 | △71 | |
| 無形固定資産 | 13 | 13 | △0 | |
| 投資その他の資産 | 285 | 321 | 36 | |
| 資産合計 | 6,366 | 5,275 | △1,090 | |

2020年第2四半期決算実績 貸借対照表 B/S (負債・純資産)



(百万円)

| | 2019年 12月末 | 2020年 2Q末 | 増減額 | 主な増減内容 |
|---------|---------------|--------------|--------|---|
| 流動負債 | 1,343 | 677 | △666 | |
| 仕入債務 | 374 | 294 | △79 | |
| 短期借入金 | 164 | 139 | △25 | |
| その他流動負債 | 804 | 243 | △561 | ・未払金の減少 △107 ・未払消費税等の減少 △86 ・未払法人税等の減少 △231など |
| 固定負債 | 1,269 | 1,214 | △54 | |
| 長期借入金 | 513 | 443 | △69 | |
| その他固定負債 | 756 | 771 | 15 | |
| 負債合計 | 2,612 | 1,892 | △720 | |
| 株主資本 | 3,753 | 3,383 | △369 | |
| 資本金 | 464 | 464 | — | |
| 資本剰余金 | 274 | 274 | — | |
| 利益剰余金 | 3,015 | 2,645 | △369 | ・2019年12月期配当金 △276 ・四半期純損失 △93 |
| 純資産合計 | 3,753 | 3,383 | △369 | |
| 負債純資産合計 | 6,366 | 5,275 | △1,090 | |

2020年第2四半期決算実績 キャッシュ・フロー計算書 C/F



□ 当社第2四半期 C/Fの特徴 「インフルエンザの季節変動の影響」

- ▶ 前期末のインフルエンザ検査薬に係る売上債権の回収が、第2四半期会計期間に集中するため、売上債権の減少により、通期に比べ、「営業活動によるキャッシュ・フロー」が増加する傾向あり

(百万円)

| | 2019年2Q (1月～6月) | 2019年通期 (1月～12月) | 2020年2Q (1月～6月) | コメント |
|----------------------|--------------------|---------------------|--------------------|--|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 1,118 | 745 | 937 | <ul style="list-style-type: none"> ・売上債権の減少 (+1,852) ・減価償却費 (+101) ・たな卸資産の増加 (△285) ・法人税等支払 (△218) ・税引前四半期純損失 (△129) ・未払金減少 (△102) |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △392 | △762 | △72 | <ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得 (△71) |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △316 | △0 | △371 | <ul style="list-style-type: none"> ・配当金の支払 (△276) ・長期借入金金の返済 (△94) |
| 現金及び現金同等物 の増減額 | 409 | △18 | 493 | |
| 現金及び現金同等物 の期首残高 | 235 | 235 | 217 | |
| 現金及び現金同等物 の四半期末残高 | 644 | 217 | 711 | |



- ◆ 緊急事態宣言解除後、社会経済活動の再開とともに外来患者数は回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せないなか、検査薬の需要回復のスピードは読みにくい状況です。
- ◆ 次シーズンのインフルエンザの流行も、新型コロナウイルス感染症の今後の動向やその対策が、インフルエンザの流行や検査需要にどの程度の影響を与えるかを予測することは困難であります。
- ◆ 一方、2020年8月6日公表の「スマートジーン新型コロナウイルス検出試薬」（研究用試薬）の発売（8月中旬以降）に関しまして、当期の業績への影響を現在精査中であります。
- ◆ 以上により、現時点では不確定要素が多く、下期の業績予想の合理的な算定が困難であることから、現予想を一旦取下げ未定とし、算定が可能となった段階で速やかに公表いたします。

IV 今後の成長戦略

▶ 遺伝子POCT検査機器・試薬システム（新製品トピックス）

スマートジーン新型コロナウイルス検出試薬(研究用試薬)

発売時期

2020年8月中旬以降

- コンパクトで低コストな装置『Smart Gene®』専用試薬
- 新型コロナウイルスRNAの抽出・PCR増幅・検出を1つのカートリッジ内に内蔵
- 検体を懸濁した試料をカートリッジに滴下して『Smart Gene®』にセットするだけの簡易迅速な測定操作
- 60分で結果判定可能
- 病院・検査所のみならず開業医・診療所など診療の場で院内検査が可能



Smart Gene®

全自動遺伝子解析装置 Smart Gene®

特定保守管理医療機器 / 設置管理医療機器

研究用試薬

スマートジーン® 新型コロナウイルス検出試薬



▶ 遺伝子POCT検査機器・試薬システムへの期待と効果

● 感染症の遺伝子検査

クリニック、市中病院→外注
(検査センターでの検体検査)

検査結果を得るのに数日を要する

基幹病院→検査室にて複数検体処理

高価な装置の導入、ランニングコスト

● 薬剤耐性鑑別検査

病院、検査センターの微生物検査室にて
増菌培養と同定及び薬剤感受性検査

検査結果を得るのに数日を要する

● 感染症の早期確定診断と早期治療

検査実施日のうちに検査結果を提供

(2018年より迅速微生物核酸同定・検査加算
点数適用)

遺伝子POCT検査

- ・簡単な操作性
- ・コンパクトで低コストな装置
- ・院内検査が可能
- ・診療の場で結果出力
(早期に治療と的確な投薬)



● 薬剤耐性菌の早期鑑別

抗菌薬の不適切な使用の防止

(2015年国際的な国家行動計画として
薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランが提言)

▶ 遺伝子検査のPOCT化による遺伝子検査マーケットの拡大

● 感染症診断における遺伝子POCT検査の実用化と普及

- 簡易で低コストな機器試薬システムによる感染症の原因菌やウイルスを早期に検出
 - ⇒ 初期感染の見逃し防止、
早期治療（一般病院検査室、開業医での検査実施）、
院内・家族内感染の防止
- 各種抗菌剤に対し耐性化した遺伝子変異部を増幅して特異的に検出
 - ⇒ 適確な投薬の選択（重篤化の低減と死亡率の低下）

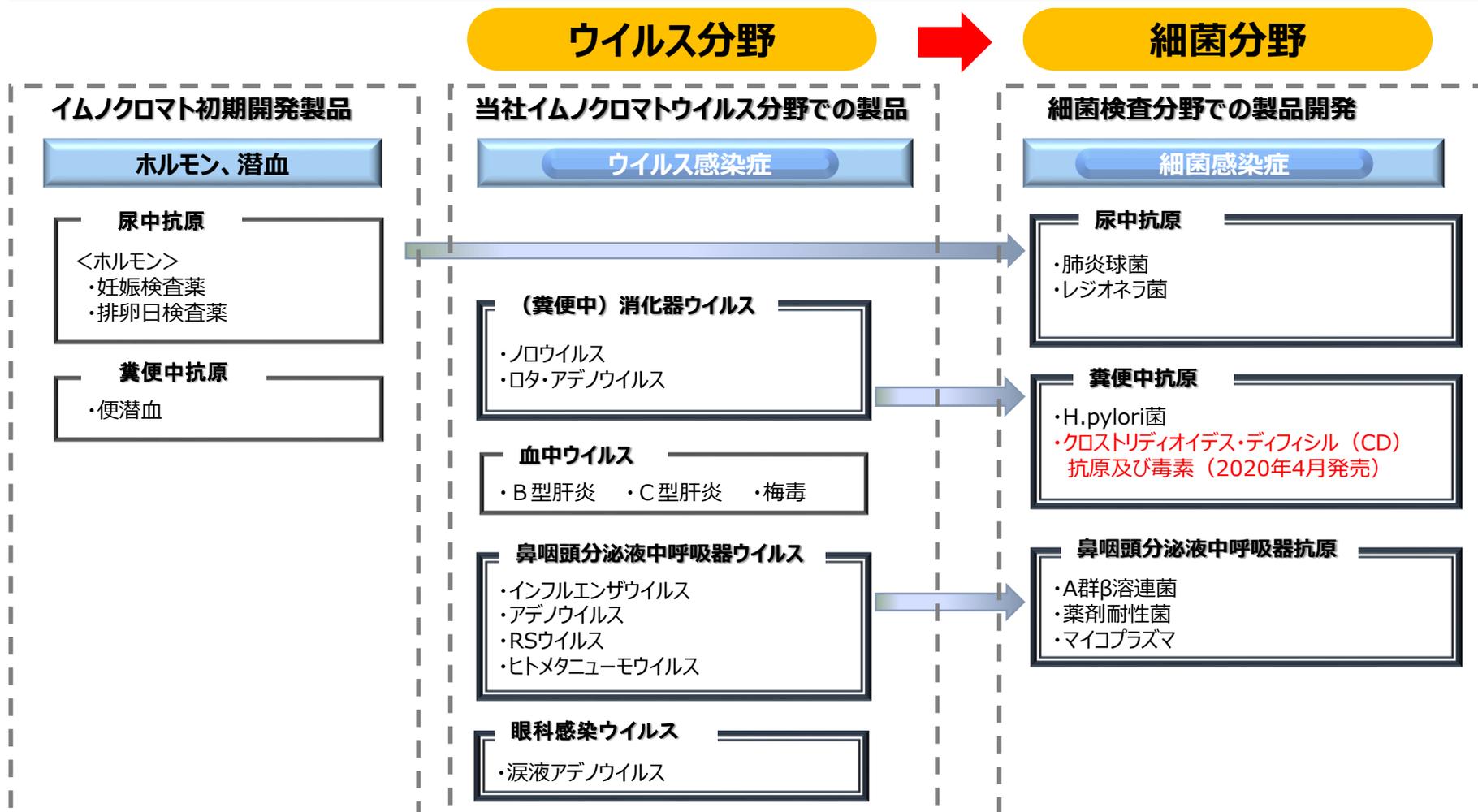
● 遺伝子POCT検査マーケットの拡大

- 新たな遺伝子POCT検査項目の開発と製品化（夏場および通年流行の感染症）

<開発項目分野>

- 呼吸器感染症項目（ウイルス、細菌）
- 消化器感染症項目（ウイルス、食中毒菌）
- 泌尿器感染症、婦人科感染症項目（細菌）
- 薬剤耐性菌項目

クイックチェイサーシリーズの拡大





技術をベースにしたハイブリッドな成長戦略

新規診断技術の創出

マーケット展開

技術革新 [ウイルス・細菌に特化]

病院・開業医分野

OTC・その他分野

確定診断技術

遺伝子POCT検査による
確定診断機器・試薬システムの市場展開

- ・呼吸器感染症項目
- ・消化器感染症項目
- ・泌尿器感染症、婦人科感染症項目
- ・薬剤耐性菌項目



- ・感染初期の確定診断
需要を拡大

◎環境・食品検査分野
への応用開発

- ・遺伝子POCT技術を応
用した環境・食品微生物
検査への展開

スクリーニング検査技術

クイックチェイサーシリーズのシェア拡大

- ・対象疾患の拡大
- ・既存製品の改善・改良



- ・ウイルス分野から
細菌分野への市場
創出

◎感染症マルチ検査システムの開発（免疫、遺伝子）
・正確性・迅速性への更なるシーズ開発

スイッチOTCマーケット
での業績拡大

- ・スイッチOTC製品の
先発販売
- ・武田コンシューマーヘル
スケアとの販売提携

安定的収益と企業成長

自社開発・製造販売一貫体制の強みを活かした両分野での成長戦略

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ミズホメディー 総務部

電話：0942-85-0303

お問い合わせフォーム：https://www.mizuho-m.co.jp/ir/ir_contact

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。